

平成24年度事業計画の概要

《事業計画》

平成21年3月、本学の運営指針である中期マスタープランが策定され、項目毎に目標を設定し実行されてきたところであります。

その結果、各取組について一定の成果をあげることが出来たと同時に、この間、順調に受験生が増加し、安定した学生確保が可能な大学となり、学外からの評価も高まっていきます。

また、昨年5月の理事会に報告いたしました通り、今後の運営ビジョンを「首都圏文系大学においてステークホルダーの期待・信頼・満足度 No.1 をを目指す」とし、その実現のために大学のガバナンス体制を整え、学校法人の運営方針を教授会や事務局構成員に浸透させ、実行を促すためのマネジメントシステム（TSR マネジメント）を構築しました。この取組について、全国で10校のみが採択された平成23年度特別補助金「経営基盤強化に貢献する先進的な取り組み」に採択されたところであります。

このように本学は、学校法人の運営のあり方についても社会的信頼を得つつあります。このような状況下、今後の本学を飛躍的に発展させる意味から、現行のマスタープラン実行の検証と評価を行い、新たな提言を盛り込んだ「第二次マスタープラン」を理事会に提案する予定となっています。

本学の経営の基盤は「安定した財務運営」「優れた人材の確保」「キャンパスの環境整備」の3つに集約され、理事会の総意とリーダーシップによって確立されるものであり、その担保のもと、教育・研究の充実や社会貢献、地域連携、ミッションに基づく学風の醸成などの取組が可能となるものであります。

平成24年度予算案を提出するに当たっては、昨年までの実績について点検、評価を行い、継続事業については今後さらなる充実を目指し、新規事業に当たっては、大学の発展に寄与するものであることを確認し、予算化をいたしました。

以下、新規事業を中心に主な事業計画を説明いたします。

《主な新規の事業計画》

1. 【鴨台プロジェクトセンターの開設】

社会貢献・地域連携及び事業活動について一元的に管理運営することによって、推進、充実を図る目的で「大正大学社会・地域連携機構」を置き、運営組織として「鴨台プロジェクトセンター」を設置する予定です。

鴨台プロジェクトセンターは以下のとおり3つの部門から成ります。

- ①研究所部門
- ②社会貢献・地域連携事業部門
- ③事業推進部門

①の研究所部門には「大正大学キャリア教育研究所」と「大正大学経営マネジメント研究所」「大正大学 BSR（仏教(者)の社会的責任）研究所」の3つの研究所を置きます。それぞれ、本学学生のキャリア育成プログラムの開発、異業種交流・経営マネジメント研修・人材育成プログラムの開発、仏教(者)の社会貢献・地域活動について調査研究及び情報発信などを行います。また、「大正大学経営マネジメント研究所」は、主に将来の新学部設置構想にかかる調査研究を行います。

②社会貢献・地域連携事業部門では、地域活性化のための事業推進をはじめ、オープンカレッジの運営、さくら草フェアなどの地域イベント連携、盆踊りなど学内教育イベント支援を行います。

また、東日本大震災後の復興支援を継続的に行っていく予定であり、特に全国の私立大学・短期大学の有志で設立した「私大ネット36（サンリク）」（現在22校が加盟）の事務担当校として当該業務を行います。

③事業推進部門

事業法人部を置き、株式会社ティー・マップの管理・運営支援の実施、及び大正大学の特色を活かした収益事業のあり方の調査研究を行います。

2. 【教育環境整備】

◎「ゼミ制度の導入」

これまで3・4年生についてゼミ形式に指導を行っておりましたが、1年生からゼミ制度を導入すべく準備をしています。このことによって、学生の所属学科・コースへの帰属意識を高め、目的意識や一定の目標を持って主体的に学ぶことのできる教育環境を目指します。

また予算上では、ゼミ合宿奨励費を設け、ゼミ活動の支援を行っていく計画です。

◎新3号館教育・研究棟オープン

新3号館が3月に竣工しました。新3号館には表現学部・仏教学部・文学部歴史学科の教授室・研究室・閲覧室及び総合佛教研究所及び鴨台プロジェクトセンターが入ります。特に、地下1階にスタジオを設置、またMacパソコンを充実させ、表現文化学科の教育環境が充実しました。

新たな環境のもとで、教育・研究活動が一層充実することが期待されます。

3. 【学生支援】

◎東日本大震災被災学生支援

東日本大震災により、自宅が全壊するなどの被災をした学生に対して、授業料の減免措置及び支援奨学金の支給を行います。

◎就職活動支援

就職活動をする学生のために、「TSR就職活動実践ダイアリー」を作成します。バランススコアカードの手法により就職活動の目標やアクションプランを明確にすることで、就職活動に臨む意識を高めると共に、ポートフォリオシートを活用して有効な就職指導ができる体制を整えます。

4. 【建設事業】

◎新5号館の建設

教育・研究環境の更なる向上、及び、将来の新学部設置に備えるために、新5号館の建設を行います。

新5号館は地上8階建、7号館と同じ外観にし、キャンパスの調和を図ります。また、最上階にはレストランを設置し、学生サービスの向上を図ると共に、広く地域社会に開放し、様々な交流の場としての活用を計画しております。

◎宗教施設（さざえ堂）の建設

3号館と5号館の間に、宗教施設（さざえ堂）を建設します。3層構造の建物で、

入口から出口までが一つの回廊となっています。宗教施設として学生の宗教教育に活用すると共に、鴨台プロジェクトセンター、大正大学 BSR 研究所を中心に、地域社会への貢献を検討しております。

5. 【T S Rマネジメント】

◎TSR ワークブックによる部局内マネジメント体制の強化

TSR マネジメント体制確立に向けて、事務局職員が自らの業務を「何のために」「誰のために」「どのように」行うのか、「必要なスキルは何か」を明確にします。さらに、P・D・C・A サイクルを循環させ、検証・改善を図るために、TSR ワークブックを作成します。このワークブックにより、ガバナンスの確立を目指すとともに、上司や同僚との間での意思疎通を促進し、部局内マネジメント体制の強化を図ります。

6. 【その他の事業】

◎危機管理体制の推進

東日本大震災を契機に、学内危機管理の在り方についての緊急対応のひとつとして、平成 23 年度に「危機管理室」を設置し、防災訓練や避難訓練の実施及び防災計画の策定を実施しております。

平成 24 年度は、緊急時に必要となる物品の備蓄を進めると共に、各種訓練の鍛度を上げて、予想される震災時に的確な行動がとれる体制の強化を推進します。

◎東北復興のための継続支援

東日本大震災復興として、平成 23 年度に宮城県南三陸町にボランティア活動を行いました。

平成 24 年度も、被災地復興支援のための活動を行います。南三陸町に開設予定の「南三陸ボランティアセンター」との協働で様々な活動を実施する予定です。

《第二次マスタープランの概要について》

平成 21 年度 3 月の理事会において策定された中期マスタープランは、平成 28 年度の創立 90 周年までの期間を目途とした計画であるが、3ヶ年を経過した現在、その進捗状況について評価点検をおこない、さらなる改善、改革案を取りまとめ、第二次マスタープランとして提案することとしました。

その骨子は以下のとおりです。

1. T S Rマネジメントシステムによる大学ガバナンス体制の確立について
2. 大学経営における 3 つの基盤について、以下の 3 分野ごとに方針を定める
 - (a) 安定した財務基盤の確立
 - (b) 優れた人材の確保
 - (c) 充実したキャンパス環境の整備
3. T S Rマネジメントの分類法に基づく 5 つの社会的責任を明確にし、大学の運営のあり方についての方針を定める。
 - a. 教育・研究
 - ・新学部、学科の新設について

- ・学士力構築と教育の質保証への取組み
 - ・高度な仏教学の研究体制の確立
- b. 学生生活
- ・クラブ、サークル活動の正しい活動のあり方と活性化に向けての取組み
 - ・就業力の養成と就活支援の根本的改革編取組み
 - ・国際交流と留学支援のあり方について
- c. 社会・ステークホルダー
- ・鴨台プロジェクトセンターの開設を運営について
 - ・鴨台会活動の活性化について
 - ・継続学習、生涯教育活動の充実について
 - ・東北復興支援活動の継続的活動について
- d. ミッションに基づく学風の醸成について
- ・大学の教育ビジョン「4つの人となる」の教育推進について
 - ・宗教教育、宗教行事について
- e. T S Rマネジメントによる大学運営
- ・T S Rマネジメントシステムの構築について
 - ・情報公開のあり方について
 - ・危機管理体制の確立について

第二次マスタープランでは、上記の各項目について、今後3ヶ年間の指針を定め、これに準拠して大学の経営及び運営に当たっていきたいと考えます。

なお、各項目の詳細について3月27日付で法人役員各位に送付いたします。何卒、御了承賜ります様、お願い申し上げます。